

関東ふれあいの道を歩く (5-1) 神奈川 (⑤稲村ヶ崎・磯づたいのみち)

2019年5月10日 池内淑皓

2019年4月19日(金) 晴れ、大潮。今日も大潮の日を狙って歩く、稲村ヶ崎の岩礁地帯が歩けるかどうか確認したいからだ。

前回のゴールである「葉山一色バス停」から歩き始める、⑤稲村ヶ崎へのスタート地点「由比ガ浜」間は、関東ふれあいの道としては対象となっていないので、連絡コースとして歩き続ける。



首都圏自然歩道連絡協議会

葉山一色(御用邸前)バス停から由比ガ浜まで継ぎのコース

御用邸→森戸→葉山→逗子→由比ガ浜 (約13km)



稲村ヶ崎へは干潮時に着きたいので、逗子駅には7:50に到着する



駅前からすぐの接続で、葉山バス停に降り立つ、バス停の前は「御用邸」だ



「しおさい公園」御用邸を過ぎ、北に向かって海岸道路の県道 207 号を行くと、しおさい公園がある。旧皇室御用邸の一部で、大正天皇がこの屋敷で崩御された、現在は一般に公開される。



この旧道は、所どころ昔の名残がかすかに残り、古き三崎街道の名を止めてくれる。



この金物屋さんも、夏になると、海浜用品で店先がいっぱいになる。



「日影茶屋」 創業 300 年と伝える、昔からここに茶屋として営業（燈摺）
現在は和食、洋食、洋菓子も扱う



「葉山柴崎海岸」 夏になると子供たちの磯遊びで、大賑わいの場所だ。



この磯は、葉山町指定の天然記念物で、黒潮系暖流が流れ込み、多種の魚類、貝類、甲殻類等が住み自然観察の場となっている。昭和天皇もここでうみうし、ヒドロ虫等の新種類を発見している。



「柴崎漁港」 おだやかな朝を迎えている



遠方の白い灯台は” 裕次郎灯台”、遠く江の島が見える



「森戸神社」森戸大明神とも云う。 祭神：大山祇神、事代主神



源頼朝が三嶋神社の分霊を祀ったと云う。三浦、北条、足利氏の崇敬も篤い。
家康から寺領七石が寄進されている。



「裕次郎灯台と碑」 石原裕次郎は、ここ葉山と逗子をこよなく愛した。

” 夢は遠く 白い帆に乗って 消えてゆく 消えてゆく 水のかなたに”



「千貫松」 源頼朝が衣笠城に向かう折に、この松を愛でて「いかにも珍しき松よ」とほめたと伝える。昔からこの松は枯れていないと云う（神社境内）



葉山森戸海岸



森戸海岸外れの苫屋では、” ひじき” を茹でていた



天日で数日干してから、商品にするという。



「葉山マリーナ」若者たちのメッカ、夏になると海が白い帆で一杯になる。



逗子海岸の片隅に石原慎太郎筆による記念碑がある



「さくら貝の歌碑」 土屋花情作詞、八州秀章作曲
この湘南海岸を散策しながら歌の想を起こしたと云う。昭和 24 年 NHK ラジオ歌謡



湘南バイパス道路を行くと、逗子ロードオアシス（ドライブイン）に到着する
トイレ休憩を兼ねて小休止。



この道は、自動車専用道路となっており、遊歩道もこの先で無くなり、

トンネルに入る。トンネル内に歩道はなく、通行出来ない。



ドライブイン先に「浪子不動尊」があるから、ここから山越えをして小坪に出る。
浪子不動は海上安全を祈って古くから明王が祀られていた。



道は浪子不動ハイキングコースとなっているから、披露山を経て迷わず小坪に行ける



20分程ハイキングコースを歩けば「披露山公園展望台」に着く。
わずか100m程の丘であるが、先の大戦では高射砲の陣地があった、展望台はその砲座跡である、猿舎、園芸サークルも同じ。



見晴らしは抜群で、眼下の小坪、江の島、丹沢山塊がよく見える



展望台脇から別荘地に下り、小坪四丁目の細い道を小坪に下る
「小坪漁港」第一種小さな漁港だが、逗子八景の一つに詠まれている。



漁港の後ろは逗子マリーナとして、また南国豊かな景観マンション群が立ち並ぶ



漁港前のお魚屋さん。値段を写すなどの条件で、一枚パチリ。
小坪のマンション街を抜けると、材木座海岸に突き当たる。



「和賀江島」 大正時代地元青年団が建てた碑

和賀とは、今の材木座の古名なり、此の地往古筏木運湊の港なりしより、やがて今の名を負うに至れるなり。和賀江島はその和賀の港口を扼する築堤を云い・・・・・・



「国指定史跡、和賀江嶋」 鎌倉時代築堤の跡。貞永元年（1232）第三代執権北条泰時の援助を受け平盛綱が築く。日本に現存する最古の築港遺跡で、江戸時代まで使用された。



磯に降りて築堤跡を散策しながら、浜辺を歩いてみよう
大潮の時のみ顔を出す築堤、昭和の頃はこの浜辺で、昔の陶器片を拾うことが出来た。
今はイイダコ（飯蛸）が良く採れる



「稲村ヶ崎と江の島」 鎌倉時代は先端の陸地との切通はなく、右側の住宅地から江ノ電に沿って極楽寺坂切通となっている。
北条高時は、まさか新田義貞がこの岬を回り込んで来るとは、予期しなかった。



砂浜を歩くと、見事な風紋が描かれていた。



継ぎとしてのゴールは、滑川が次回⑥稲村ヶ崎コースの起点となる（由比ガ浜入口）
32,700歩 23.5kmであった この項完

関東ふれあいの道を歩く（5-2）神奈川（⑥稲村ヶ崎・磯づたいのみち）に続く